

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

## ②施設・事業所情報

名称：中野島のほら保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：住吉 久枝	定員（利用人数）：130（128）名	
所在地：〒214-0012 川崎市多摩区中野島4-4-15		
TEL：044-455-5510	ホームページ： <a href="https://daijikai.jp/">https://daijikai.jp/</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2017年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人大慈会		
職員数	常勤職員：28名	非常勤職員：13名
専門職員	（専門職の名称）：名	
	保育士：30名	看護師：1名
	栄養士：3名	調理師：1名
	子育て支援員：4名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	居室：0歳児室	設備：給食室
	居室：1歳児室	設備：沐浴室
	居室：2歳児室	設備：洗濯室
	居室：3歳児室	設備：洗濯物干し場
	居室：4歳児室	設備：職員休憩室
	居室：5歳児室	設備：事務室
		設備：相談室
		設備：乳児用トイレ
		設備：幼児用トイレ
	設備：大人用トイレ	
	設備：屋上園庭	

## ③理念・基本方針

## &lt;理念&gt;

1. 我々は、まず福祉の増進に寄与する者でなくてはならない。

福祉とは人々が幸福に日々を暮らしてゆくことである。時代と共に社会は変化し、それに伴い人の感じる幸福感も変貌してゆく。しかし我々は幸福の核は常に家族であると認識し、それが円満安寧であるようにサポートし、時には積極的にコーディネートすることが我々の第一の仕事である。

2. 我々は、子どもたちの親、家族の幸せを守り、育まねばならない。

子どもたちは如何なる人種、能力、環境、立場の違いに拘わらず、等しく愛され、護られなければならない。我々はその責務を、その家族と分かち合い、その心身の健やかな成長と幸福を希求する。そのために我々は、子ども、家族、社会の求めるものを常に探

り、その求めに応じた、適した援助を行わなければならない。

3. 我々は、我々自身その一人一人が幸福であるように努力し、協力しなければならない。

我々は安心、健康、協調は、寛容の精神を強め、奉仕、援助の能力を鍛える。子どもたちは我々に何よりも安らぎと、頼もしさを求めているのだから。

4. 我々は、生命の尊さと、大切さと、喜びをよく知っていなければならない。  
そしてそれを伝える能力、技術を磨いていこう。

#### <基本方針>

##### 1. ひとりひとりの人格を尊び、守り育てる

子どもの人権を第一に考え、子どもたちに最善の環境（人、物、場）を与えることができるように常に研鑽し、子どもたち一人ひとりに寄り添う保育を行う。また、子どもたちを取り巻く多くの人々についても充分尊重し、子どもたちの成長に生かしたい。

##### 2. 安全で安心し、中庸な保育

保育所には様々な家庭環境の方が子どもを預けている。特色を前面に出し過ぎて一部の方のみに受け入れられるような保育内容ではなく、福祉的でスタンダードな保育を実現し、多くの方が利用しやすい保育園を目指し運営する。また、そのことが反映しバランスの取れた人格の育成をしていきたい。

子どもたちにとって安全で安心でき、安らぎを与える場であることを前提としてその中で、子どもたちの感性を十分に刺激し、磨けるような保育を展開する。

##### 3. 協調、おもいやり、相互援助

子どもたちの安定した成長は安定した環境の中にある。子どもの育ち子育て環境を社会全体で支えるという視点より保育園の役割を充分理解し、保護者の方への育児支援、就労支援を行いながら、子どもを取り巻く人々と信頼しあえるようにする。

そのためには常に我々の人間性を高め、何が子どもたちにとって良いかを常に共に考え実現する仲間を得、子ども社会全体の向上へ寄与できるようにする。

#### <保育目標>

1. 心も身体も元気な子ども < にこにこ >

2. 目を輝かせて遊ぶ子ども < きらきら >

3. 仲間と育ちあう子ども < るんるん >

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

##### <中野島のはら保育園の特徴的な取組>

●社会福祉法人の保育園機能を活かし、保護者のニーズに耳を傾け、取組んでいる。

##### ①地域子育て世帯へ発信

たまっこノート、たまっこカレンダー、法人ホームページより情報提供、子育てサロン「バンビ」（年2回）

園庭開放、園見学、保育相談、離乳食相談、うたとリズム、移動動物園（年1回）防災体験（年1回）

##### ②在園児

サブスク（エプロン・おしぼり）0、1歳児

スイミング（希望者のみ：4、5歳児）

③地域のお年寄りとの交流  
老人施設や老人サークルとの交流（年長児）

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年05月01日（契約日）～ 2024年03月08日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2018年度）

⑥総評

【中野島のはら保育園の概要】

●中野島のはら保育園（以下、本園という）は、社会福祉法人大慈会（以下、法人という）が運営する認可保育園です。法人は現在、川崎市で9園の保育園（小規模保育園事業含む）を運営しています。法人は基本理念として4つを掲げ、就労支援・育児支援・地域支援を行いながら、未来を担う子どもたちが生きる力の基礎を育むことのできる主体的な保育（教育）を実践しています。法人系列全園が「保育の中で子どもたちの人間性を育みながら、子ども主体の・子どもを真ん中に置いた・子どもの権利を尊重した保育」を大切にしています。

●本園は、JR南武線・小田急線「登戸駅」よりバスにて「中野島公社住宅前」バス停から徒歩約1分程度の住宅地の中に位置しています。平成29年に公立東中野島保育園民営化園として、鉄筋コンクリート2階建てのゆったりとした園舎に、広々とした園庭を有しています。周辺は、多摩川流域の自然豊かな平地で、JR南武線・小田急線「登戸駅」経由で東京・川崎等へのアクセスが良く、新たな住宅化が進んでいます。

●本園は、0歳児～5歳児を預かる、定員130名（利用人数128名）の保育園です。保育室は、年齢ごとに専用スペースが設けられ、3歳児～5歳児は常時、異年齢で合同保育ができる構造になっています。保育目標は「心も身体も元気な子ども（にこにこ）、目を輝かせて遊ぶ子ども（きらきら）、仲間と育ちあう子ども（るんるん）」とし、成長の段階に合わせた保育に配慮し、子どもたちの身心にしっかりと寄り添い、一人ひとりを大切に保育を目指しています。

◇特長や今後期待される点

1. 【子どもたちの身心に寄り添い一人ひとりを大切に保育】  
子どもたちが体験する様々な経験を通して、「好奇心」・「考える力」・「選択すること」・「真面目さ」・「ユーモア」・「粘り強さ」・「優しさと思いやり」を育むことを大切に、子どもたちの身心に寄り添い、一人ひとりを大切に保育を目指しています。みんなで一緒に楽しむ遊び（教育的取組）として、音楽と触れる「おんがくあそび」、造形力を育む「せいさくあそび」、体を動かす「うんどうあそび」等に取組み、専門講師による保育指導で、一方的に教え込む教育でなく、一人ひとりの個性的な内面を引き出し、様々なものを大切にする心を子どもたちに培ってもらうことを目指しています。また、子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備し、自発性を発揮できるよう援助しています。園庭も広く、戸外で遊ぶ時間や環境を確保し、遊びの中で身体を動かすことができるよう援助しています。散歩コースは多摩川周辺にあり、自然と触れ合う機会も多いです。子どもが主体性を持って考え、継続して遊びたい環境作りにも今後期待されます。

2. 【保護者への情報提供と連携】

園の保育方針として「家庭と連携し、生活リズムを整えていく」と掲げています。保護

者には、日常保育の様子を、キッズリー電子連絡帳（0・1・2歳児）やキッズリーを通しての情報（3歳以上児）で知らせ、保育者と保護者が情報を共有し、保護者から意見・相談をしやすい体制を構築しています。キッズリー（電子連絡帳）や送迎時の声かけで日常的な情報交換を行い、家庭との毎日の密な連携を心がけています。保護者から相談や意見がある時は、速やかに園長に報告し情報共有を図っています。保育内容説明会・懇談会・行事・保育参観等、保育のねらいや保育内容について、保護者の理解を得る機会を設け、行事後アンケートも実施しています。しかし、コロナ禍により園内に入って園児の様子を見る機会が少ないため、写真（ルクミーフォト）やZoom等の利用も含め、園の様子を家庭に詳しく伝えていく方法を採用しています。家庭の状況、保護者との情報交換の内容等は必要に応じて記録しています。今後も、保護者が必要に応じて、相談ができ意見が述べられる環境作りの構築に期待します。

### 3. 【職員の育成と質の高い保育の提供】

必要な保育士・看護師・調理師等の人材体制について、基本的な考え方で運用し、職員配置を十分に行い、働きやすい環境を構築することで職員の定着率が高くなっています。在職年数10年以上の職員が3割以上在籍し、子どもたちが安心して成長できる質の高い保育の提供ができる体制になっています。法人の内部研修として、幼児担当部会・乳児担当部会・保健衛生部会・給食栄養部会等の機会を確保し、また、NHKのアナウンサー講師を招いての研修（日本語・読み聞かせ・文学朗読・日常会話）を行い、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施しています。今後、職員の習熟度に配慮した園内研修を継続していただきたいと思います。また、職員個々の生活状況を考慮しながら有給休暇取得や短時間勤務もできています。職員の都合や事情による働き方への要望・提案にはオープンに受け止め、シフトは主任がワーク・ライフ・バランスに配慮して作成しています。厚労省の「こころの耳」を実施し、看護師が個別に聞き取りを行い、ストレス軽減に努めています。非常勤職員も含めたシフトの作成により、職員の負担軽減・残業軽減にも努めています。引き続き、職員の声を聞き、経営の改善や業務の実効性を高める取組みを期待します。

### 4. 【地域支援のための取り組み】

子どもが地域の人々と交流を持つことは大切な取組テーマと考えています。地域資源の一つとしての立場を意識して、園としてできること・やるべきことに取り組んでいます。関係機関や多摩区園長会における民生委員・児童委員との意見交換や交流の場を通じ、変化していく地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めています。多摩区地域子育て情報BOOK・たまっこカレンダーを利用し、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努め、園庭開放も実施しています。月2回の音楽とふれるあそび「うたとリズム」には地域の方も参加しています。年長児が地域との交流として福祉施設に行き、近隣の保育園と交流する機会も設けています。勤労感謝の日には、関係のある方々（八百屋・肉屋・清掃車・消防署等）へ感謝の気持ちでプレゼントを作成し渡しています。散歩時には、地域の方と挨拶をし、公園では率先してゴミ拾いをしています。また、地域の親子の集い子育てサロン「バンビ」で当園の看護師・栄養士が講座を行う等、保育園の専門的知識・技術を地域に寄与しています。今後も、地域の福祉向上のため、継続的な支援活動にも取り組んでいただきたいと思います。

## ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 社会福祉法人 大慈会 中野島のはら保育園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取組の感想》

法人の基本的な考え（保育理念）を分かっているにもかかわらず、文が長く分かりにくい現状だったことを指摘されたことで、理念について確認し合えるきっかけができた。

設問が誰が対象なのかによって判断理由が異なっていることが分かり、よくできていても、「できていない」と回答している場合も多く、逆にもっと自分たちの保育に自信を持っていいのかなと思えることもあり、振り返りの意義を改めて感じさせられた。良い所を強みとする。

一人一人が日々の保育の振り返りができたことと、相手からどのように自分の姿が映り出されていたのかが知れたことで、自身の質の向上につながることや、全ては子どもの幸せのためという基本理念に向かって一つになり、取組めたことが一番の収穫だった。

《評価後取組んだこととして》

1. 第三者評価利用者アンケート調査にご協力いただいたことへの御礼の挨拶（文章）
2. 利用者アンケートを下に振り返りを行い、改善できるところは行っていく。検討を必要とする案件については、対話会でお話をさせていただいた。無理な案件については、丁寧に保護者に説明をした。
3. 以下の項目を主とし、パートを含む全職員が園長面談を行った。  
①保育の質の向上について ②基本方針の現実に向けての意識 ③組織内の改善点  
④働きやすい職場作り

⑧第三者評価結果  
別紙2のとおり